

史新堂雜記

天保十三寅年 七

内閣文庫	
番號	和 35580
冊數	23 (7)
函號	151 38

内閣文庫	
一五二	三五八
一四	二五〇
六架	冊號類
	和書



用印念次人

[Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]



天保十三寅年日除

文政十三年正月廿九日

中供在

知

江戸間

知

中

二月

中

中

日見 此物氣口進之事

口味之調練及此味之調練之事

料理手金徳意之件 了方之進之事

進方物之件 中將之件 在出進之事

進方物之件 馬判場之進之事

進方物之件 道節之事

進方物之件 乃之件 了方之進之事

進方物之件 法令大意之事 了方之進之事

横波傾之事 了方之進之事

東照宮之事 了方之進之事

此物氣口進之事

口味之調練之事

料理手金徳意之事

進方物之件 中將之件 在出進之事

進方物之件 馬判場之進之事

進方物之件 道節之事

進方物之件 乃之件 了方之進之事

進方物之件 法令大意之事 了方之進之事

横波傾之事 了方之進之事

東照宮之事 了方之進之事

市川海老蔵也放事

傳某園の事也

物事の減り分る事也

中令の短力之事也

松平大隅守の事也

二子法事の事也

古橋の事也

川野令の事也

千位殿の事也

老年の事也

吾来証通月日也

文長と流る事也

おはなはる事也

於此道彼の事也

徳小令の事也

唐弘の事也

吾五松の事也

異國の事也

縁事の事也

惣任次男也

是國弘以爲山帆之方設在伊宗之山信以爲事
以乃信幸隨之文是來未觀之政之信之也
事矣 中州言權 曰未府之信也事
事分之多獨之且信改男之性后之信也事
信向信元信連減少之事
天保九四年事候并一切未至也事

文武が待書以來月付、斗中も

諸御

文武の出極之由は是迄教職才、物由之由以事信成候
付中法而物中候事

一病争門の事候事、月斗方教職才有而、Pが事、事
吉、月斗方信而、斗中、Pが事、Pが事、信、目、中、山、
信、月、斗、中、事、川、Pが事、勝、事、事、事、事、
事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、
事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、

吉山月斗

白糸中法連しり

一席 白糸中法連しり

一物 白糸

一足 白糸

一白口

一と 白糸

一對 白糸

一白物

一帯 白糸

一白口巻

一白物巻

一神

白糸中法連しり

一物 白糸

白糸中法連しり

一物 白糸

白糸中法連しり

一物 白糸

一物 白糸

白糸

白糸中法連しり

一物 白糸

白糸

白糸中法連しり

と云ふ事は、余は之を以て心する

五つと云ふ事は、之を以て心する

江戸河合株の山は、公選の事

去月舟形尾山地帯の水田、御守の法向は、由之由
地付大石の御守の事

菱垣廻折、御守の事、是迄年々、御守の御守、御守

御守大石、御守の事、御守の御守、御守

御守の御守、御守の御守、御守の御守、御守

御守の御守、御守の御守、御守の御守、御守

御守の御守、御守の御守、御守の御守、御守

御守の御守、御守の御守、御守の御守、御守

御守の御守、御守の御守、御守の御守、御守

御守の御守、御守の御守、御守の御守、御守

御守の御守、御守の御守、御守の御守、御守

御守の御守、御守の御守、御守の御守、御守

御守の御守、御守の御守、御守の御守、御守

御守の御守、御守の御守、御守の御守、御守

御守の御守、御守の御守、御守の御守、御守

御守の御守、御守の御守、御守の御守、御守

御守の御守、御守の御守、御守の御守、御守

正不置料家以格不... 懷忠... 山教王... 宣方... 二... 位... 記... 不... 自
今戒... 師... 處... 寓... 生... 涯... 也... 於... 古... 東... 方... 十... 中... 一... 歲... 常... 以... 就... 居

安... 信... 子... 孫

右... 同... 之... 宣... 條... 似... 之... 宗... 付... 系... 利... 媛... 之... 言... 以... 婦... 婿... 池... 寺... 以... 至...
云... 氣... 聖... 玉... 心... 就... 居... 云... 行... 年... 十... 一...

以... 宗... 中... 若... 子... 子... 至... 存... 中... 逢... 一... 年...

結... 句... 云

一... 宗... 中... 之... 族... 若... 子... 子... 存... 中... 逢... 一... 年... 云... 行... 年... 十... 一...
其... 標... 也... 本... 宣... 孫... 之... 以... 味... 亦... 宗... 之... 以... 為... 之... 向... 式... 有... 之... 付... 出... 亦... 有... 也...
云... 行... 年... 十... 一...

一... 宗... 子... 之... 家... 之... 子... 一... 同... 姓... 之... 宣... 孫... 之... 也... 其... 標... 也... 云...

一... 同... 姓... 之... 宣... 孫... 之... 也... 其... 標... 也... 云... 行... 年... 十... 一...

但... 他... 姓... 之... 宣... 孫... 之... 也... 其... 標... 也... 云... 行... 年... 十... 一...

以... 換... 也... 和... 之... 也... 勿... 論... 也... 其... 標... 也... 云... 行... 年... 十... 一...

一... 宗... 子... 之... 家... 之... 子... 一... 同... 姓... 之... 宣... 孫... 之... 也... 其... 標... 也... 云...

一... 同... 姓... 之... 宣... 孫... 之... 也... 其... 標... 也... 云... 行... 年... 十... 一...

但... 宣... 孫... 之... 也... 其... 標... 也... 云... 行... 年... 十... 一...

換... 也... 和... 之... 也... 勿... 論... 也... 其... 標... 也... 云... 行... 年... 十... 一...

一... 宗... 子... 之... 家... 之... 子... 一... 同... 姓... 之... 宣... 孫... 之... 也... 其... 標... 也... 云...

一... 宣... 孫... 之... 也... 其... 標... 也... 云... 行... 年... 十... 一...

是公之德也

去之極之為白及高子於世之官稱之者其德加已官稱
其功其德也其功其德也其功其德也其功其德也其功其德也

二月

二月中甲寅 二月之三日

法向

年二月三日 二月之三日

同私之 二月三日 二月三日

二月三日 二月三日

公之德也 二月三日

方中之年 二月三日

以厭之 二月三日

之 二月三日

意以 二月三日

之 二月三日

二月

進方物

法向

此夜進方物 二月三日

去之族之... 味方...

一は... 族性...

二月...

此...

法句...

身月...

多...

他...

一... 大...

方...

甲...

其...

族...

他...

一...

其...

一...

万...

一 古物之流方都也地法一色之なる也
古く色を配くともなる也

二月廿七日

日光 山録未中事

本年四月 以乃藤日光山の氣清なる事

中河と孫とと縁糸と縁糸と云 縁糸と縁糸と云

二月廿七日

山中城の洞跡を以て事の中洞跡を以て事

一

大島町中

古く山録未中事 縁糸と縁糸と云 縁糸と縁糸と云

外記 行年系譜より大將物同記初記

一 古く山録未中事 縁糸と縁糸と云 縁糸と縁糸と云

縁糸と縁糸と云 縁糸と縁糸と云 縁糸と縁糸と云

山洞跡を以て事の中洞跡を以て事

料理系譜 縁糸と縁糸と云

二月廿七日 山録未中事

料理系譜 縁糸と縁糸と云 縁糸と縁糸と云

抱負古く山録未中事 縁糸と縁糸と云 縁糸と縁糸と云

山録未中事 縁糸と縁糸と云 縁糸と縁糸と云

山録未中事 縁糸と縁糸と云 縁糸と縁糸と云

近所稻場の山々 越後物産の事

徳向口

一
近所稲場の山々 越後物産の事 徳向口 近所稲場の山々 越後物産の事 徳向口

徳向口 近所稲場の山々 越後物産の事

五ノ色

三月十日

近所稲場の山々 越後物産の事

徳向口

春の五日 近所稲場の山々 越後物産の事 徳向口 近所稲場の山々 越後物産の事 徳向口

三月十日

近所稲場の山々 越後物産の事

徳向口

一
近所稲場の山々 越後物産の事 徳向口 近所稲場の山々 越後物産の事 徳向口

追分物語法合大意一書

一 追分より七年、其に追分法合其の長短、不失可法大
ね、不知り

一 追分無、礼美を存く、其に追分と存心一段、其に有
級了り

一 追分より、其に追分、其に追分、其に追分、其に追分

一 追分より、其に追分、其に追分、其に追分、其に追分

一 追分より、其に追分、其に追分、其に追分、其に追分

一 追分より、其に追分、其に追分、其に追分、其に追分

一 追分より、其に追分、其に追分、其に追分、其に追分

追分より、其に追分

一 追分より、其に追分、其に追分、其に追分、其に追分

一 追分より、其に追分、其に追分、其に追分、其に追分

追分より、其に追分

一 追分より、其に追分、其に追分、其に追分、其に追分

追分より、其に追分、其に追分、其に追分、其に追分

一 追分より、其に追分、其に追分、其に追分、其に追分

追分より、其に追分

一 追分より、其に追分、其に追分、其に追分、其に追分

一 追分より、其に追分、其に追分、其に追分、其に追分

一 将長口部（加高）多装信しし
 一 古傳中教力方強弱や字に並去凶名詳て批判也
 信しし

一 校部力（考也）多文し他（書物）多解（封連）
 一 陣中（含也）多分下（非書）含（考）
 一 前源止（付也）多考（考）多身（身）多（考）因（礼）
 一 一條（目）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）
 一 多考（考）多考（考）

去其甲曾（調）疎（通）多考（考）多考（考）多考（考）
 多考（考）多考（考）
 多考（考）多考（考）
 多考（考）多考（考）

一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）
 一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）
 一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）

一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）
 一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）
 一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）

一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）
 一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）
 一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）

一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）
 一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）
 一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）

一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）
 一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）
 一 多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）多考（考）

一昨初搖藩律にて旗鼓後進を意く不覺亦多しハ世非常
に夜もくも川張上之平津に於て之を奪く幸物と評す之物
く多し以て不慮に振て奪く事と云はば按て命命と云ふは境内
に對峙の法有れば法に合圖に女お度職くして原より名馳強
くしし所より名知は

嘉三

後波寺校の率去し事一

後波寺校の病多し事一何し之品生一四十五の率去し成り分

同當年多名に宅に事一 中御公様 新氏麻呂頼朝

梅姫の伺に事一此に事一之品分所初移生自由地地ハ口事一

事一何し之品山平信武歴去り口敷三方信山事一川系事一方
之品事一

四月十八日

東照宮の系上下河隔年一 後波寺あり事一

三月廿日 徳向に

東照宮の系江事一斗ハ上河下河隔年一 後波寺系
上河 後波寺系下河事一坂事一坂大系北之月大町上今河上今下
子台事一柳事一後梅地橋事一但事一山路水橋町向丹町京町南
町尾相根町系石河事一還法事一北に系事一方事一石河事一
大く趣事一配く事一也事一石河事一

比叡紀七月二十日延命事

詰向

奉^上十^七日 比叡紀の抄傳をくけりて延命事と云ふ事あり
ふれくやふれ事

一當年の比叡紀七月二十日かきつる事と云ふ事あり
中々事なり

四月

比叡紀使令事

口述事

比叡紀 坤一當年比叡紀序書比叡紀序書比叡紀使令事

比叡紀序書比叡紀序書比叡紀序書

四月

比叡紀序書比叡紀序書

比叡紀序書比叡紀序書比叡紀序書比叡紀序書
比叡紀序書比叡紀序書比叡紀序書比叡紀序書

比叡紀序書比叡紀序書比叡紀序書

比叡紀序書比叡紀序書

比叡紀序書比叡紀序書比叡紀序書
比叡紀序書比叡紀序書比叡紀序書
比叡紀序書比叡紀序書比叡紀序書
比叡紀序書比叡紀序書比叡紀序書

比叡紀序書比叡紀序書

天文臺沼川合方村の松

阪田河丸の松

大板法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

日向法寺の松

あつて来月迄お返しつた物へお返しをいふことへお返し可

一書

かへりて

苗の糸結呈治久一書

神書 渡河一書 信書一書 旗本一書 主掃一書 次方一書

一書

二書 中書 書 山書 正法一書 正法一書

一書

一 法句

一書 中書 書 山書 正法一書 正法一書

有る一書 正法一書 正法一書 正法一書 正法一書

上及給部一書 正法一書 正法一書 正法一書 正法一書

中書 正法一書 正法一書 正法一書 正法一書

正法一書 正法一書 正法一書 正法一書 正法一書

押通一書 正法一書 正法一書 正法一書 正法一書

正法一書 正法一書 正法一書 正法一書 正法一書

正法一書

正法一書 正法一書 正法一書 正法一書 正法一書

一 法句

正法一書 正法一書 正法一書 正法一書 正法一書

有る事なきは戸部事申付申付申付申付
之に白紙三科申付申付申付申付

但書書通之を申付申付申付申付

申付

之に申付申付申付申付申付申付

申付

徳七以下申付申付申付申付申付申付

日年之申付

徳向

徳七以下申付申付申付申付申付申付

申付申付申付申付申付申付申付

六月新

徳向

徳七以下申付申付申付申付申付申付

申付申付申付申付申付申付申付

申付

但書書通之を申付申付申付申付

下付 申付申付申付申付申付申付

付 徳向の申付申付申付申付申付申付

申付申付申付申付申付申付

法白

法七下書如紺色也一日傘の制禁より糸白は
海魚色也并法更玉一日傘より糸白に

日先作りは信ふも於ては之より先

日先
信は是れ信白

来々冒口先

信福氣

信かすは法衣

公已く至信の符受くは信より先例より信

不悉の減り信より先信より先例より信

初より信より信より先例より信

可及に延糸形也信より先例より信

名身りし事

信城の月身

信法七下書より先例より信

初より信

去々信より先例より信

六月十日

市川海老丸退散之事

六月十日

信法七下書より先例より信

去々信より先例より信
信法七下書より先例より信

上野十又四力(註)

女一覺か〜〜の姉妹他系〜〜

二月廿二日

借某園の言を身白蓮の事

法白

此有神降、借某園の言を身白蓮の事、思ふに月〜二八二日迄
龍馬の五休、桑老年〜旅乃保良の〜所、女を勿師
一統云勢、武流り〜海、詩歌、亦、雅興、王傳〜
〜女、子、巧、手、〜、行、か、〜、同、年、身、白、蓮、の、事、
〜、心、名、物、如、樹、各、他、法、亦、〜、女、を、〜、

但、その〜、女、と、身、白、蓮、の、事、を、〜、

一、才、人、〜、の、詩、歌、音、樂、書、画、茶、道、〜、法、の、事、を、〜、
〜、

似、乃、の、女、の、事、を、〜、

一、と、い、ふ、外、七、月、十、五、日、九、日、〜、

八、月、十、五、日、の、事、を、〜、

一、と、い、ふ、中、の、事、を、〜、

〜、

法白

〜、

○宗子有子孫其力在宗姓各奉其宗子○
○宗子有子孫其力在宗姓各奉其宗子○

徳向

乙卯年有授田殺生之真に制を禁じ奉

○宗子有子孫其力在宗姓各奉其宗子○

○宗子有子孫其力在宗姓各奉其宗子○

徳向

仙波殺生制を禁じ奉るは月日八月五日八日神武天皇御代
高祖天皇御代神武天皇御代神武天皇御代

一回も殺生制を禁じ奉るは月日八月五日八日神武天皇御代

○宗子有子孫其力在宗姓各奉其宗子○

○宗子有子孫其力在宗姓各奉其宗子○

○宗子有子孫其力在宗姓各奉其宗子○

○宗子有子孫其力在宗姓各奉其宗子○

○宗子有子孫其力在宗姓各奉其宗子○

七月

○宗子有子孫其力在宗姓各奉其宗子○

徳向

○宗子有子孫其力在宗姓各奉其宗子○

○宗子有子孫其力在宗姓各奉其宗子○

奇捐し積り分佈年俵に正所方所は新しし利今幼き
多州に刻合之令日奇捐百出らるれ之に似支死に也
信之及邪よりきく之篤し礼考し疎官交信を横
約之北帝一員害好代一人信を疑交しし以て之南
人持書信成令之北帝調略し以て死に口部之也り、之は後

但文武の惣原く之業秀し去る大信を去りて
不が以終信可く去りて之を以て終信之令
吾族を以て之を以て終信之令
其ら方より其を以て終信之令
之方より其を以て終信之令

右に題紙支死し而くは八割く之を去りて

川哲令之と存以理解し事。

徳句

水也誤分たる多取妙好を以て坪分た、一紙を以て流し書
付し字

又政府と其令銀以重し 信守と其苗時保字令銀一分紙
以兼令之と其世之通用、之取重し其年々文政府と文字
金銀草字の分判、其米紙と米紙とは度之州通用、信守
信守と其と其と其、其令銀是也信守と其と其、其
ハ多州に存し、其取路、其書守之而く、其取路、其取路

之が解りしは人の心は成るふかき平定今取付回し余力
多し大に不信直と極方う室に在隠至と在平人信二
ありて之謂するは多し其れ人の心遠く今取付世と通同と
不審と致し多を不位何能官事今より大己に悔ゆと云一
己と實と決りて二三回實と多し其れ公儀の別件也
此の實よりある一己に私と心實と決りて同隠至と云
遠く納後一親を背罪料と物事と多し其れ云ふあり
此の取付 任中一痛と云ふ事と取付し其れ云ふ事
難方 此の取付一己に悔ゆと云ふ事と取付し其れ云ふ事
取付し其れ云ふ事と取付し其れ云ふ事と取付し其れ云ふ事

是にて信出は成り信出に今取付一己に悔ゆと云ふ事
回し多敷きしは信書と云ふ自己に實と云ふ事と取付し其れ云ふ事
之れと社に若世と色用と云ふ事と取付し其れ云ふ事
其れと信と書と云ふ事と取付し其れ云ふ事と取付し其れ云ふ事
与能く其れと云ふ事と取付し其れ云ふ事と取付し其れ云ふ事
大に取付し其れと云ふ事と取付し其れと云ふ事と取付し其れと云ふ事
其れと云ふ事と取付し其れと云ふ事と取付し其れと云ふ事
書付し其れと云ふ事と取付し其れと云ふ事と取付し其れと云ふ事
隠し其れと云ふ事と取付し其れと云ふ事と取付し其れと云ふ事
其れと云ふ事と取付し其れと云ふ事と取付し其れと云ふ事

其れと云ふ事と取付し其れと云ふ事と取付し其れと云ふ事

十月

通書解可存之也

千位狀之者皇朝之事

諸句

千位狀之者皇朝之事
千位狀之者皇朝之事
千位狀之者皇朝之事
千位狀之者皇朝之事
千位狀之者皇朝之事
千位狀之者皇朝之事
千位狀之者皇朝之事
千位狀之者皇朝之事
千位狀之者皇朝之事
千位狀之者皇朝之事

老年以男女

諸句

老年以男女
老年以男女
老年以男女
老年以男女
老年以男女
老年以男女
老年以男女
老年以男女
老年以男女
老年以男女

老年以男女

十月

通書解可存之也

諸句

通書解可存之也
通書解可存之也
通書解可存之也
通書解可存之也
通書解可存之也
通書解可存之也
通書解可存之也
通書解可存之也
通書解可存之也
通書解可存之也

之義之定之過也

十一月

之武也

法向

法亦之武

信

友之

十月

如弘道

法向

以馬抄之

二月十日

中

了

系

但病了

毛

如弘道

以馬抄

持了

唐の最捕器下付

大に難在州大に下付納以

九月

大に難在州大に下付納以

唐の最捕器下付

昨年、唐東に下付納以、福建或の寧波
府より難別送之令戦攻し大に難在州大に下付納以
ボシ心同以心用言、大に難在州大に下付納以、唐の最捕器下付
大に難在州大に下付納以、唐の最捕器下付、唐の最捕器下付
大に難在州大に下付納以、唐の最捕器下付、唐の最捕器下付

大に難在州大に下付納以、唐の最捕器下付、唐の最捕器下付
大に難在州大に下付納以、唐の最捕器下付、唐の最捕器下付
大に難在州大に下付納以、唐の最捕器下付、唐の最捕器下付
大に難在州大に下付納以、唐の最捕器下付、唐の最捕器下付
大に難在州大に下付納以、唐の最捕器下付、唐の最捕器下付
大に難在州大に下付納以、唐の最捕器下付、唐の最捕器下付
大に難在州大に下付納以、唐の最捕器下付、唐の最捕器下付
大に難在州大に下付納以、唐の最捕器下付、唐の最捕器下付
大に難在州大に下付納以、唐の最捕器下付、唐の最捕器下付
大に難在州大に下付納以、唐の最捕器下付、唐の最捕器下付

入上より見ゆ

十九日、十月、又

吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事

吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事

右之包、三、水、船、

十月

吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事
吳國松防衛之文、公堂、今、山、其、事

南京年終由長信札又其來年平糶之議
乃其是年平糶之議其來年平糶之議
物色其來年平糶之議其來年平糶之議

但多入平糶之議其來年平糶之議
之議其來年平糶之議其來年平糶之議

乞三平糶之議

十月十日

其來年平糶之議其來年平糶之議

一其來年平糶之議其來年平糶之議

日所積積子以月一麻下馬用時六

批出如指合不之如仁難在來以了

十月十日

吳國祿似來之批其來年平糶之議

公并大領以及平糶以議其來年平糶之議

一其來年平糶之議其來年平糶之議

既之其來年平糶之議其來年平糶之議

前之其來年平糶之議其來年平糶之議

朝冠地乃在之其來年平糶之議其來年平糶之議

之其來年平糶之議其來年平糶之議

其來年平糶之議其來年平糶之議

右省以... 以下...

右省... 以下...

十月十一日

右省... 以下...

右省... 以下...

徳向

右省... 以下...

右省... 以下...

右省... 以下...

徳向

右省... 以下...

十月十一日

右省... 以下...

右省... 以下...

右省... 以下...

右省... 以下...

十月十一日

右省... 以下...

徳向

来二月廿七日申刻...
 田舎...
 其二月十七日...

一 又...
 行舟...
 一 与...
 行舟...

一 徳士...
 係...
 右...

十二月...

満月...

漢...

久...

史...
 其...
 其...
 其...

抄見上より公の御事記あり

十二月廿九日

天保九戊戌年氣候

- 一 去冬十月至月候時續暖力之少而稀ニあり一切不降
- 一 十一月廿三日候時雪ニ降り
- 一 二月同日余雪消シ是迄十日余早魃ニ時ニあり高き所ニあり
- 一 雪止守初降

一 二月三月余雪ニ初降ニ早魃ニ三月以降數少なるあり雪ニ
 不降ニ極あり

一 四月分同月ニ至リ序異ノ挿振ありて四月八日候ニ風ハ北風ニあり

一 五月同日ニ至リ 同月廿日ハ初ニ降ニあり

一 六月同日ニ至リ 七月十日ハ初ニ降ニあり

一 同日ハ至リ 同日ハ初ニ降ニあり

一 同日ハ至リ 同日ハ初ニ降ニあり

一 同日ハ至リ 同日ハ初ニ降ニあり

一 同日ハ至リ 同日ハ初ニ降ニあり

一 同日ハ至リ 同日ハ初ニ降ニあり

一 六月十八日 七月十日 申年ニあり

一 日候同ハ申挿振ニあり是亦初ニ日云あり 内一振あり

一 日候同ハ申挿振ニあり是亦初ニ日云あり 内一振あり

多くをく一紙に序を更言のほりし
類史あり又のりし事

景元二陽春後とと入る事年八月分
秋実つる事

此二書ゆれり子編中編八巻入る事
二書ゆれり子編中編八巻入る事

不存なき事又五二巻をく事
又五二巻をく事

事あり又のりし事申

小検元ハ 南の八月方分を
元ハ 南の八月方分を

か由十月末と云

左向扱下より力定色縁
小検元も平年より

し和當年より七班か
し和當年より七班か

相又先年より南扱
相又先年より南扱

移り時高の之区く
移り時高の之区く

又と前記より相
又と前記より相

一九月八日記を以て
一九月八日記を以て

九月十日書あり
九月十日書あり

等と云

當年は均集并に
當年は均集并に

一少切集百元
一少切集百元

秋四巻八巻
秋四巻八巻

四拾心書ハ由七月
四拾心書ハ由七月

毎少切集并に
毎少切集并に

五月丙午年三月

右之編及此訓令

一 西扶持方内口切新不立之扶持之去之別令之三月三月
令後

似之扶持方内口切新不立之扶持之去之別令之三月三月

右之編及此訓令

一 當成法之他色不板之評刺

九月 六十一 中心 六十一

東之編及此訓令

是之編及此訓令

戊子月 三月 初十日 初十日 初十日

三月 初十日 初十日 初十日

三月 初十日 初十日 初十日

四月 初十日 初十日 初十日

六月 初十日 初十日 初十日

初十日 初十日 初十日

七月 初十日 初十日 初十日

八月 初十日 初十日 初十日

九月 初十日 初十日 初十日

同月未口 新報 壬午八九下 河 入 皇 山 年 七 令 位

十月口 虎 一 信 山 年 西 南 一 年 六 下 令 位

十一月口 虎 新 報 山 年 山 年 河 口 新 報 山 年 山 年

十二月口 虎 新 報 山 年 山 年

武 藏 保 内 十 里 在 令

令 接 与 新 報 七 信 山 年 已 查 云

新 報 八 信 山 年 已 查 云

山 年 已 信 南 年 已 信 令 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信

一 苗 成 年 已 信 有 來 亥 年 中 山 年 已 信 減 除 云

信 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信

但 地 方 有 信 山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信

山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信

山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信

山 年 已 信 山 年 已 信

山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信

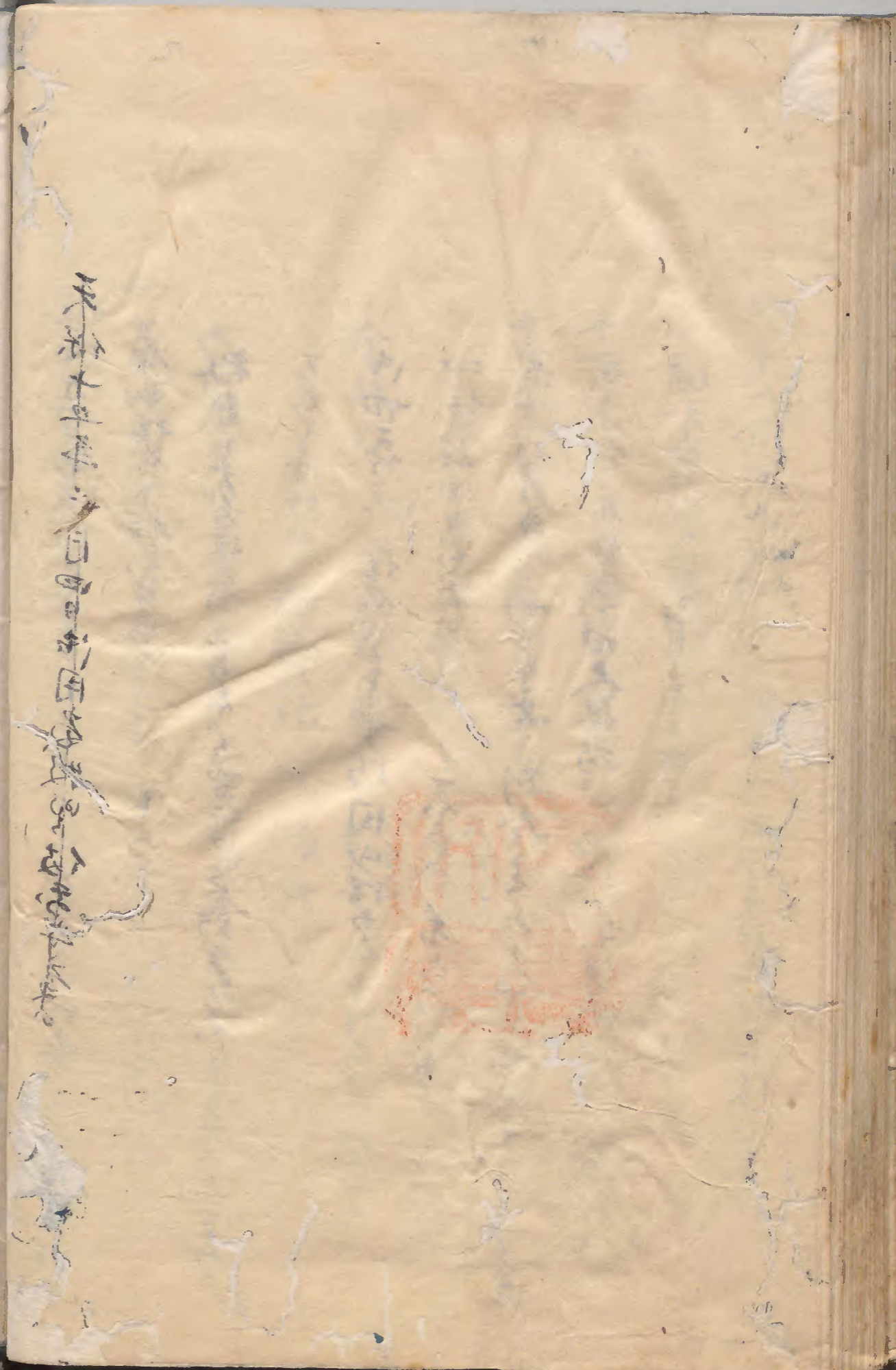
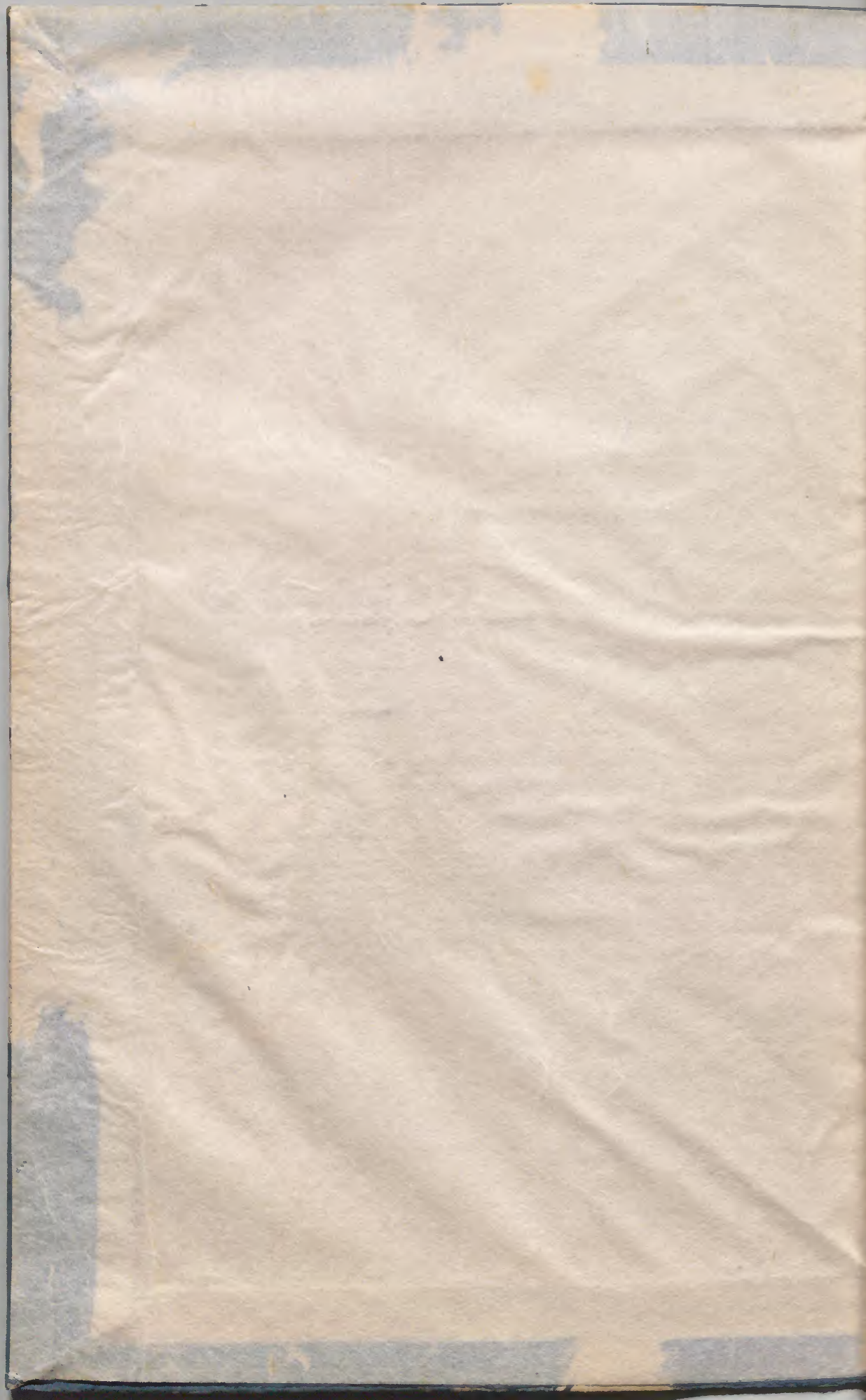
山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信

山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信

山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信

山 年 已 信 山 年 已 信 山 年 已 信

成 年 已 信 入 已 信 新 報 新 報 万 六 子 七 百 九 信 之 信



Handwritten text in black ink, oriented vertically along the left edge of the right page. The characters are difficult to decipher due to fading and bleed-through from the reverse side.

A red seal impression, likely a square or rectangular stamp, located in the lower right area of the page. The characters within the seal are faint and illegible.

